

インタラクティブ空間演習 (女子美術大学大学院)

記号内容とは「意味」か「指示物」か？

3章 「1. 記号と意味作用」 pp.88-98
(2017-11-15)

池上嘉彦 著「III. 創る意味と創られる意味— 意味作用をめぐる—」、『記号論への招待』

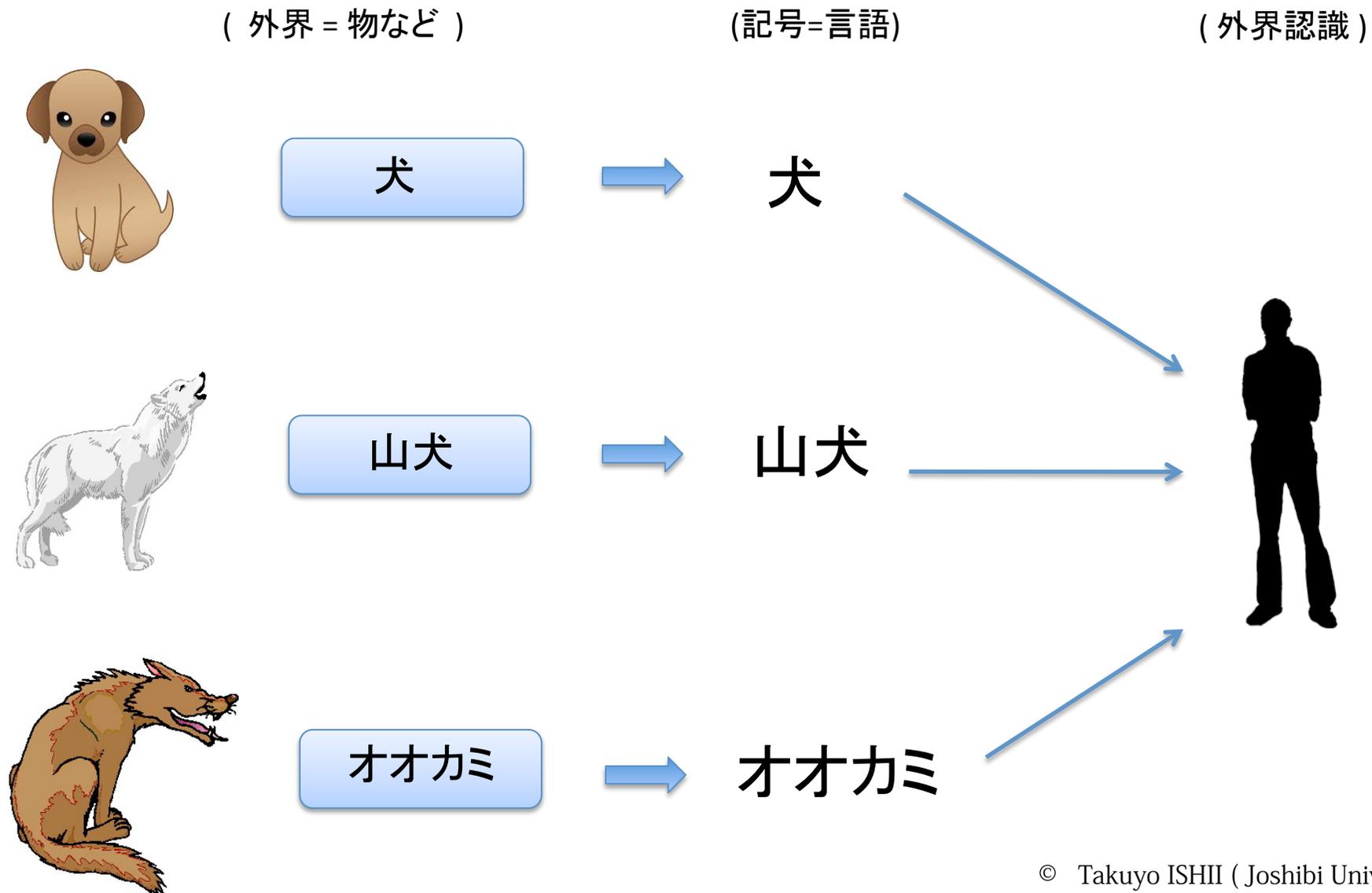
担当： 石井 拓洋
takuyo.ishii @ gmail.com

2017

「言語名称目録観」

ソシユール以前の外界認識モデル

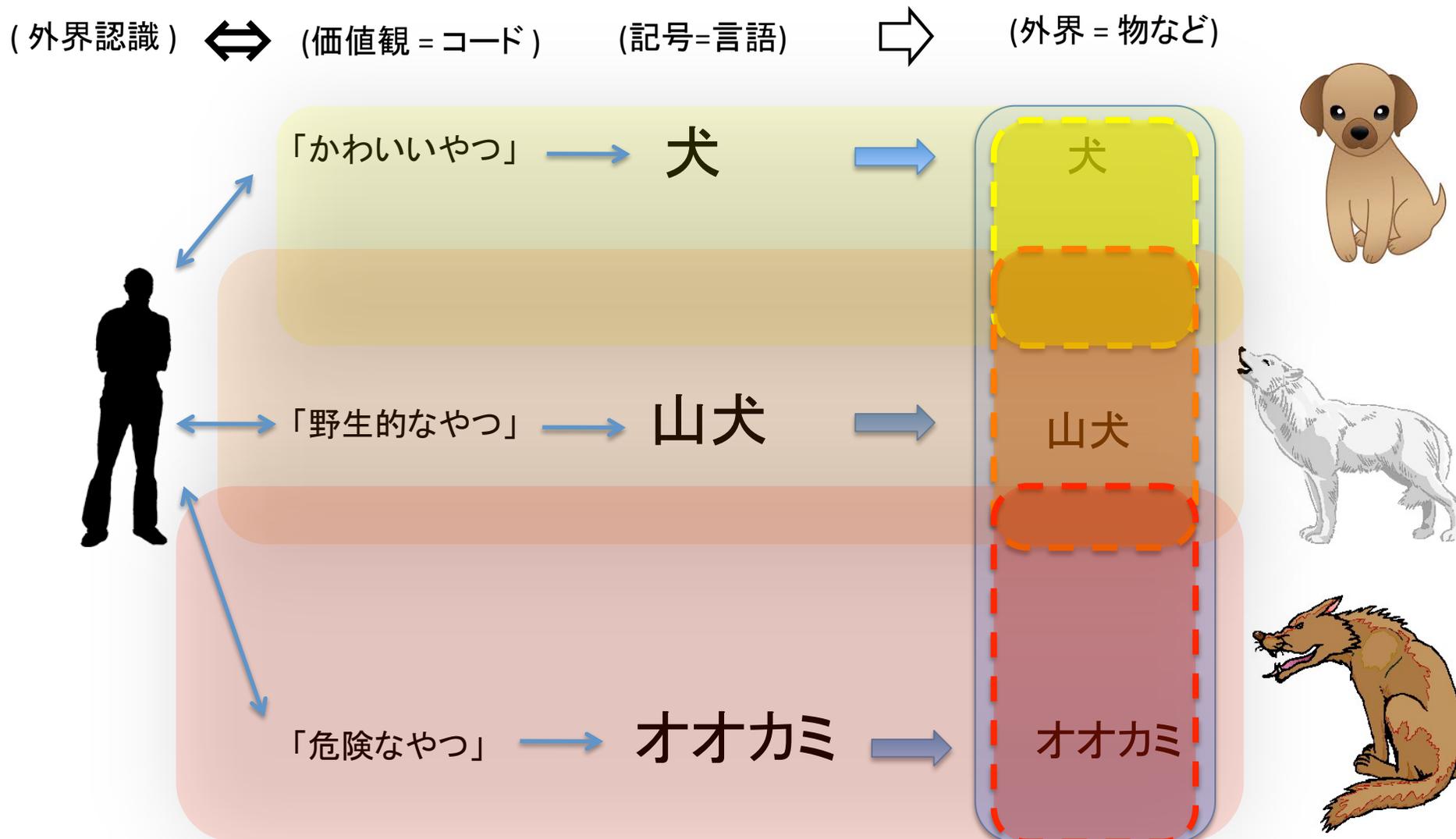
最初に物などが存在する。
人は物にラベルをつける。
それによって外界を認識する



「言語論的転回」以後

ソーシャル以後の外界認識モデル，記号論の視点

人の価値観に基づいて本来は〈区分別のない〉外界を記号を用いて〈区分別する〉。そして外界を認識する。



「3-1. 記号と意味作用」 (pp.66-109)

で述べられることは？

復習

- 本章では 「記号の意味作用」 の問題を考えてみる (p.67)

- 【 記号の本質的はたらき = 対象界の分節 】

記号はさまざまな対象、現象の中から「同じ」意味、「同じ」価値を持っているものをまとめあげる。「異なる」意味、「異なる」価値をもつものを差別化する。(p.76)

- 「同じ」か「異なる」かの判断、つまり「対象界の分節」すること、これを規定するのが「コード」である。(p.77)

「3-1. 記号と意味作用」 (pp.66-109)

で述べられることは？

復習

- 「記号表現」と「記号内容」は完全な自己同一性の条件を満たしていなくてもよい。むしろその方が普通である。(p. 75)

(記号表現)



= 「平和」

(記号内容)



= 「平和」

さまざまな鳩が
「平和」を示す。

「3-1. 記号と意味作用」 (pp.66-109)

で述べられることは？

復習

- 「記号表現」での「同じ」と「異なる」を考える
- 「銀河」での /が/ 音の発音は、[g]でも[n]でも「銀河」と認識される
なぜか？ → それが日本語の「コード」だから。(p.81)
- 「銀河」の発音での、[g]と[n]についての視点 (p. 82)
 - 「銀河」として共に認識される。だから「同じ」 = イーミックな視点
 - 科学的に違う音声である。だから「異なる」 = エティックな視点

「3-1. 記号と意味作用」 (pp.66-109)

で述べられることは？

復習

- 「イーミック」とは、対象の文化の一員としてコードを重んじる視点 (p.79)
- 「エティック」とは、科学的な視点 (p.79)
- 記号とは、一般に、「イーミック」な視点で捉えられるものである。

例) 銀河の「が」は、「言語音 /が/」という「恒常的・不変的な」判断基準が存在する。

実際には「/が/」音には、[g]と[ŋ]など、多少の変種がある。
「イーミック」な視点では、上記は「同じ」である。

意味作用をめぐる 「記号内容」側の問題

「記号内容」を規定するのは
「指示物」か「意味」か？

記号内容としての「指示物」とは？

「記号表現が示す 特定の具体的な個体ないし事例そのもの」 (p.88)

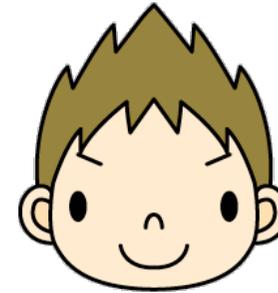
(記号表現)

「鈴木太郎」

固有名詞的



(記号内容 = 「指示物」として)



特定の具体的な個体
鈴木太郎くん、そのもの

- ・ 記号表現としては限られたケース (p.90)
- ・ 記号使用者にとって、特に価値のある指示物に限られる (p.90)
- ・ 全て 固有名詞的記号であれば、数が膨大となり、人間は運用不可能 (p.90)
- ・ 記号が適用できる世界が「閉ざされた」ものとなる。(p. 92)

記号内容としての「意味」とは？

「記号表現が適用されうるために 指示物が満たしているべき条件」(p.88)

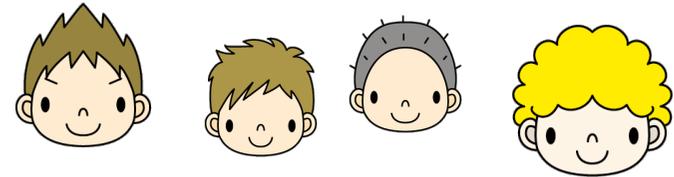
(記号表現)

「子ども」

- ・ 普通名詞的
- ・ 適用条件：年齢が低い人



(記号内容 = 「指示物」として)



- ・ 年齢が低い人 たち
- ・ 年齢が高い人とは違う人たち
- ・ 「同じ価値」を共有するもの

- ・ 「普通」の 記号表現としてのモデル (p.91, 93)
- ・ 多くの場合は、一つの記号の適用は 同じ価値を有する一連の対象 (指示物) に適用 (p.91)
- ・ 記号が適用できる世界が「開いた」ものとなる (p.93)
- ・ 新しい対象でも、「意味」の規定にあっていれば適用が可能である (p.92)

記号内容としての「指示物」とは？

「記号表現が示す 特定の具体的な個体ないし事例そのもの」 (p.88)

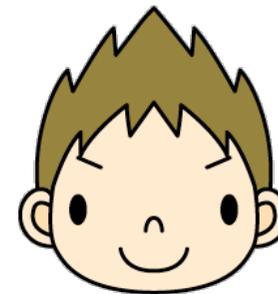
(記号表現)

「鈴木太郎」

固有名詞的



(記号内容 = 「指示物」として)



特定の具体的な個体
鈴木太郎くん、そのもの

人間の言語では「記号」は普通名詞的に使用される

- 「記号内容」は「指示物」ではなく「意味」として規定される

- 人間の言語では「記号内容」は「意味 = 同じ価値を有するもの」として規定

- それが自然な規定 (p.93)

▼「記号内容」が「意味」として規定される例

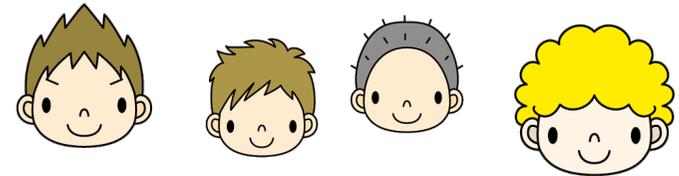
(記号表現)

「子ども」

- ・ 普通名詞的
- ・ 適用条件：年齢が低い人



(記号内容 = 「指示物」として)



- ・ 年齢が低い人 たち
- ・ 年齢が高い人とは違う人 たち
- ・ 「同じ価値」を共有するもの

人間の言語では「記号」は普通名詞的に使用される

- 「記号内容」は「指示物」ではなく「意味」として規定される

- 日常生活では〈同じ出来事〉を、実際には〈異なる形〉で遭遇する事例が多い

例) 「毎朝乗る 八時発の急行」

〈同じ出来事〉 = 「毎朝乗る 八時発の急行」 (イーミックな視点)

〈異なる形〉 = 「日ごとに、実際の車両や乗客は異なっている」 (エミックな視点)

→ このような〈同じ出来事〉によって

人間の生活の「連続性」が保たれる

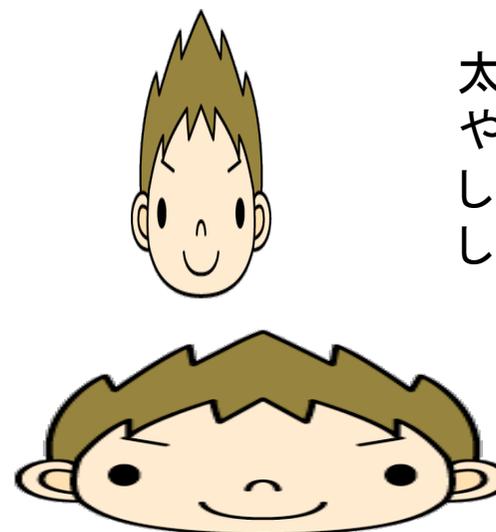
太郎くんが変化しても、、、

(p. 93-94)

「指示物」を記号内容とする場合

「太郎」

固有名詞的



太郎くんは
やせたり、ふとったり
して変化する。
しかし、、、

- ・ 太郎くんは、厳密には常に 同一ではない。日ごとに「気分」、「体型」、「装い」が変わる
- ・ しかし、**固有名詞的記号「太郎」は、つねに 太郎くん を指し示す。**
- ・ この意味では「固有名詞的」な「太郎」も、「普通名詞的」に使用されることがある
- ・ ただし、「太郎」の語は、次郎くんや、三郎くんを〈指示〉するように変化することはない。

はれんち 【破廉恥】

1. 恥を恥とも思わないこと。恥知らず。
2. 不正・不徳の行いをする事。

かなくな 【頑】

1. すなおでなく、ねじけているさま。偏屈。
(他、融通が利かず、愚鈍、無教養で情趣を解さない、等)

言語「かたくな」が変化すると、、、 (p.94)

「意味」を記号内容とする場合

変化前

「意地っ張り」

「かたくな」なるもの

普通名詞的

意味が変化

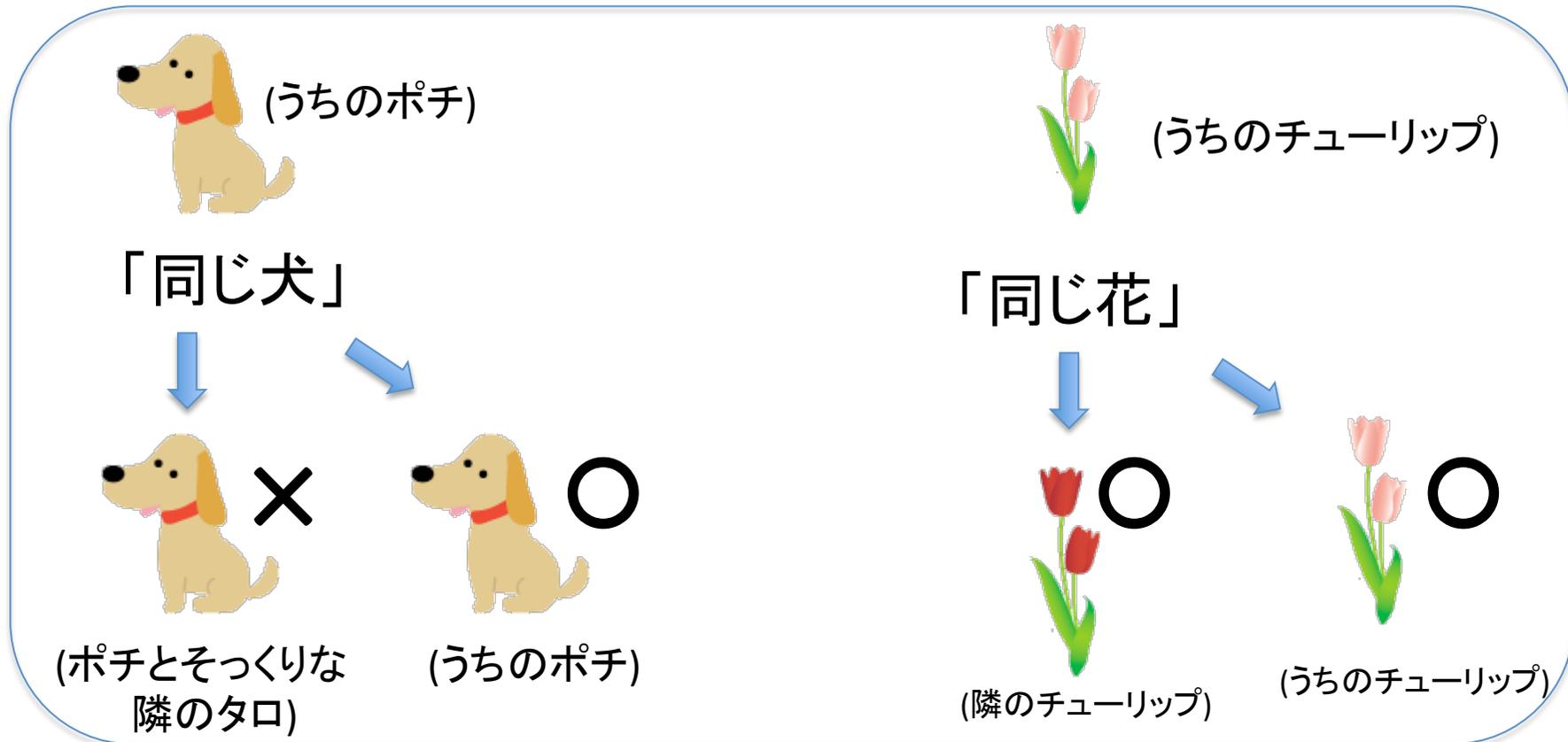
変化後

「伝統を守る一途な態度」

- ・ 適用される「記号内容」があまりに変化すると、「意味」が変わったと認識される

「同じ犬」と「同じ花」のちがい

(p. 95)



- ・ 〈動物〉 → 〈植物〉 → 〈無生物〉 の域に入っていくにつれて、、、、
- ・ 「個体としての自己同一性を強調するだけの文化的意味が次第に認め難くなる」 (p.95)

記号の連続性の意義 – 未知なるものを探る (p. 96-98)

- ・ 記号の連続性 (「毎朝8時の急行」の「同じ」) は、未来への方向性をもつことに意義あり
- ・ この「連続性」を拠り所として、われわれは、「はじめての事態」を解明しようとする
- ・ はじめての事態に対して、人間はまず、従来の経験の枠をあてはめて解明を試みる
- ・ 「経験の連続性という仮説に立って、それを未来に投影してみる」(p.96-97)
- ・ 「大体はそれで処理出来る」 → 「異なるが同じ」という性格のものが多いから
- ・ 真に新しいものとの遭遇 の場合は？ → 新しい記号の創出、コードの修正、

詩「ごびらっふの独白」 草野心平 (1903-1988)

(pp. 97-98)

- ・ 「蛙の詩人」と言われ、生涯にわたってカエルをテーマとした詩を書きつづけた。
- ・ この詩は、1928年に刊行した初の詩集となる『第百階級』に収録された詩。
- ・ 「ごびらっふ」とは 一匹のカエルの名前らしい。
- ・ この詩は、「カエル語」で書かれたものらしい。

朗読「ごびらっふの独白」

<http://www.youtube.com/watch?v=e3RJA19QjWA>

合唱曲 《ごびらっふの独白》高嶋みどり (作曲) 、草野心平 (作詞)

<http://www.youtube.com/watch?v=BjjJ2x0nqOU>

以上